



波紋

発行所 教育活動総合サポートセンター
〒213-0033 川崎市高津区下作延 5-11-8
E-mail supporto731a@luck.ocn.ne.jp
URC <http://www16.ocn.ne.jp/~srmi/>

文科省委託研報告会



この3月11日の東日本大震災は、日本全体が未曾有の国難に見まわられております。災害にあわれました皆様方には、お悔やみとお見舞いを申し上げます。

当サポートセンターでは3月23日（水）に、文部科学省からの委託研究「問題行動等への対応におけるNPO等の活用に関する実践研究事業」の研究報告会を実施する予定でございましたが、このような状況の中で報告会を中止いたしました。

改めまして縮小した報告会を、サポートセンターの運営委員・活動会員のみで4月23日（土）に、川崎市教育会館で実施いたしました。

当日は、運営委員長である帝京大学岡田守弘教授より指導・講評をいただきました。

平成17年度から4年間、不登校の子どもたちを学校復帰・社会復帰させることを目的として研究を行ってきました。

子どもたちの中には、特別な支援を必要とする者、外国籍や外国文化を身につけた者が学校に適應出来ず悩んでいます。また、いじめ・遊び型非行・暴力行為等の問題行動を起こす者など指導・支援の必要な者が大勢います。

しかし、これらの子どもを受け入れる施設や機関が少ないのが現状です。平成21～22年の研究は不適應を起こしている全ての児童生徒を対象に指導・援助にあたってきました。今年は、文部科学省委託研究の総まとめだと思っています。



サポートセンターに通っている不登校状態にある児童生徒76人の中から、20人を研究の対象として問題行動の改善にむけた指導プログラムを作成し指導・援助を進めてきました。

その過程を・具体的な言葉のやりとりや感情の変化を具体性・継続性・相互性のルールで記録をとり分析することでその子にあった指導プログラムを開発することができました。

開発したプログラムは①学習プログラム②コミュニケーション・人間開発形成プログラム③アンガーマネジメントプログラム④ソーシャルスキルトレーニング⑤支援にむけての協働の5点です。

放課後おもしろクラブ



青少年の家では「放課後おもしろクラブ」として、実験をしたり、絵や工作をしたり、お琴を弾いたりして、みんなで楽しい放課後を過ごすための“おもしろ理科教室”“おもしろ造形教室”お琴であそぼッ”を毎週水曜日に小学生を対象に行っています。

- (1) おもしろ理科教室 (各学年 15人)
 - ・ 3・4年生 第1水曜日 5・6年生 第3水曜日
- (2) おもしろ造形教室 (40人)
 - ・ 活動日：第2水曜日 15:00~16:30
- (3) お琴であそぼッ (5歳児~小学6年生: 15人)
 - ・ 活動日：第2・第4水曜日
 - ・ 新規クラス : 15:00~16:10
 - ・ 2年次クラス : 15:50~16:30



青少年の家では、3月13日(日)10:00~15:30、「第15回川崎市青少年の家フェスタ」開催する予定でしたが、日本全体の状況を考え中止をいたしました。青少年の家は「サポートセンター」と「生涯学習財団」がジョイントを組み共同で管理運営にあたっております。今後5年間の指定管理を引き続き受託することになりました。

サポートセンターは、青少年の家での事業展開を中心に取り組んでいます。主な事業は、ほのぼのスクール(通学合宿)、エコチャレンジクラブ(環境学習)、放課後おもしろクラブ、よちよち歩きの子集まれ!、ユースワーカー倶楽部等活動を行っています。



5月行事予定

日	曜	主な行事
3	火	憲法記念日
4	水	みどりの日
5	木	こどもの日
6	金	子どもサポート旭町(お茶) 子どもサポート南野川情報交換会
9	月	中原区保護者ミーティング
10	火	子どもサポート旭町(料理) シニア卓球クラブ(青少年の家)
11	水	学習・相談打合せ 役員会 放課後おもしろクラブ(音・図)
13	金	子育てサロン(青少年の家)
14	土	第1回輝け☆明日の先生の会 学校図書館パートナー活動開始
17	火	子どもサポート旭町(お花) シニア卓球クラブ(青少年の家)
18	水	カリキュラム委員会 放課後おもしろクラブ(理科) KYWC(青少年の家)
24	火	シニア卓球クラブ(青少年の家)
25	水	事務局会議 放課後おもしろクラブ(音・図) KYWC(青少年の家)
26	木	よちよち歩きの子集まれ(家)
27	金	子どもサポート南野川(遊ぼう) 子どもサポート旭町(読書)
28	土	第2回輝け☆明日の先生の会 第1回理事会
30	月	教育修繕業務打合せ
31	火	シニア卓球クラブ(青少年の家)

編集後記

文部科学省の委託研究は6年間の長きにわたりましたが、この実践研究への取り組みが、サポートセンターの発展へ寄与してきたともいえます。今回の研究報告会はこの6年間の集大成としたいものでもあります。昨年度で委託研究はおわりでしたが、研究は今後も進めてまいります。